

家道訓

三

總論
財

二
新

9
3404
2



へ若くはくちなり。はたしそ人なる家
法ハ必堅固ケンゴめてやれり。子孫よくま
はさされいやわれなくわらひな。こころ
孫才力強固ツヨクとされる人なりとも。はたし
て虫と持えらる先祖に及ぶこと。この
子孫利リひめて先祖のさめきつるはたし
ひりの事めく今乃世よあらうとして
そ先祖をないうらけしてそ法をやする。
新法をいふもハ必そあたらふ。先祖の法を

久々としてちり切つてぞあるつまでも

家人は射とらふ嚴正として厚重なれ。おのつ
 つ威ありて人あやうくびづくのおくまれん
 いらてんけく急ぐとせられとも人
 せらる

[illegible]

くめくふ初る哉。とて老乃うわしく
ろくろくまのきばちくはくハとら也
行^セ勢^{セイ}ある家の賓客^{ヒンカク}と司^{ツカサト}りありこい必主人の
権勢^{ケンセイ}みへたり。それゆゑ実あるであらう。
主人よりけしむとつきくそれを戒^{イミレ}む人
もさうあらう。またせめてついでの中をそ
れからいせじらふゆゑに。只さ主人として一
か主人は誠意くける人々や
人のいまだ防^{フシム}のよ。大抵とあせらんや

まうう。せむい。む。六つ。い。え。く。ね。く。う。す。く。
 かく。て。作。う。富。ま。ち。う。も。そ。う。れ。金。
 作。し。く。す。う。次。む。う。さ。く。い。通。り。る。や。
 こ。ま。揚。漂。よ。あ。人。の。つ。め。え。き。く。修。理。も。
 ひ。う。く。材。乃。費。多。う。され。と。又。そ。う。れ。用。
 と。そ。常。み。用。う。た。あ。さ。あ。り。て。う。一。ま。う。
 材。の。こ。め。ち。う。あ。ち。か。只。堅。く。い。う。た。よ。く。して。
 う。さ。り。た。た。う。を。と。や。う。ひ。目。と。さ。ら。う。あ。は。は。
 材。と。多。く。さ。う。く。と。あ。る。人。が。い。ま。れ。た。と。

仁を以てとも。わが身のみ。女子孫のこゝろと
 りして。若くは。わが身を。たゞ。一。村。室。
 と多く。子孫。よ。め。さん。より。ハ。材。を。と。そ。く
 廣く。若く。は。わが。身。又。母。兄。弟。親。戚。よ。の。つ
 く。と。終。の。人。れ。多。と。す。こ。い。知。を。と。め。く
 一。是。は。わ。が。身。の。子。孫。の。こ。ろ。材。の。こ
 と。の。甚。き。事。なり。

子孫。の。こ。ろ。も。せ。れ。な。く。是。不。肖。
 とい。ふ。教。え。す。う。て。も。さ。う。不。改。

一と申すは迷つるなり。神佛よるに
ついでにのりていふことはいふに
年うつそいよむ世を愛をきくべし
きく人々む人のいふにきく。今時の
風俗よむとていふにきく。世に
くむとていふにきく。又世とていふに
きく。世とていふにきく。世に
ても世を愛とていふにきく。世に
のとりとていふにきく。世に

理とていふにきく。世に
又世の言理ありとていふに
凡そ世の言理ありとていふに
家とていふにきく。世に
世にきく。世に
ていふにきく。世に
とていふにきく。世に
世にきく。世に
世にきく。世に
世にきく。世に

かしに。智者にも偏なり病あり。れじ。と
 と。あつて。いふに。家のまじりたる人。いじむ。お
 ろふ。親戚家人。いふ。な。叶。い。る。と。う。
 こ。い。う。て。憶。せ。され。い。家。道。和。睦。を。い。
 國。は。ま。ま。と。う。と。ま。と。る。も。又。な。と。あ。ら。ふ。
 一。物。なり。い。は。ある。と。れ。が。を。用。て。ある。
 み。は。う。を。て。求。め。や。と。れ。物。を。う。め。い。は。う。
 こ。物。は。あ。ら。う。と。い。ふ。と。う。は。い。ふ。と。い。
 り。あ。あ。い。多。く。つ。つ。や。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。

西と東の間にみづうみれいほふ長
 じきとむらさきとあざと他ふう
 つきは多くは花の枝のまのどけくさうと
 西と東の間にみづうみれいほふ長
 あざとむらさきとあざと他ふう
 させんともむらさきとあざと他ふう
 うみれいほふ長とあざと他ふう
 ふくうみれいほふ長とあざと他ふう
 宅はむらさきとあざと他ふう

一、海は深なる水に、十の枝の一本とさう
 いなり。樹木とさうは葉とさう。花と次と
 一、葉樹とさうは果とさう。果は人よきもの
 多くさう。あざと花の枝とさう。さうは
 このつて葉とさうは花とさう。さうは
 花の枝とさうは葉とさう。さうは
 本は梅とさう。さうは花の枝とさう。さうは
 くらうさう。さうは花の枝とさう。さうは
 一、花の枝とさうは葉とさう。さうは

能^{ツキ}むものは、葉^ハ樹^{ツキ}ハ杉^{スギ}松^{マツ}榎^{エノキ}金^{イヌ}松^{マツ}杉^{スギ}深^{フカ}松^{マツ}冬^{フユ}
ま^ナ樹^{ツキ}やう^ウ竹^{タケ}とあ^ア方^{ホウ}い^イ多^タく^クう^ウ一^{イチ}と^ト風^{フウ}
と^トま^マま^マま^マう^ウて^テ時^{トキ}用^{ヨウ}い^イ使^シふ^フお^オな^ナよ^ヨハ^ハ柳^{ヤナギ}榎^{エノキ}松^{マツ}
栢^{ヒノキ}や^ヤう^ウ一^{イチ}ま^マけ^ケと^トい^イじ^ジ陰^{イン}葉^{エフ}ま^マう^ウく^ク夏^{ナツ}ハ
故^カ多^タく^ク一^{イチ}と^トう^ウと^ト一^{イチ}又^{マタ}葉^{エフ}ハ日^ヒ用^{ヨウ}の^ノ助^{タスケ}と^トあり
宅^{タク}中^{チュウ}ぬ^ヌう^ウる^ルハ新^{シン}く^ク市^シぬ^ヌう^ウは^ハ海^{ウミ}の^ノ邊^ヘ
葉^{エフ}ら^ラう^ウて^テう^ウる^ルう^ウま^マに^ニ目^メと^トう^ウる^ル一^{イチ}し^シり
事^{コト}花^{ハナ}あ^アふ^フや^ヤう^ウい^イ

家道訓卷之四

貝原篤信編

用財

美^ミの^ノ事^{コト}皆^{みな}法^{ホウ}あり^リ法^{ホウ}よ^ヨあ^アう^ウ人^{ヒト}い^イる^ルま^マて
そ^ソの^ノ数^{スウ}り^リ法^{ホウ}と^トあ^アう^ウて^テ只^{ただ}い^イる^ルを^をよ^ヨ法^{ホウ}
を^を終^{ハヤ}へ^ヘい^イふ^フそ^ソの^ノや^ヤう^ウる^ルあ^アと^トや^ヤい^イじ^ジる^ルふ
む^ム法^{ホウ}あ^アる^ル一^{イチ}法^{ホウ}あ^アる^ルい^イふ^フ財^{サイ}用^{ヨウ}つ^ツい^イ。因^{イン}
縁^{エン}して^{シテ}あ^アと^トい^イう^ウう^ウ一^{イチ}
元^{ゲン}家^カと^ト治^チじ^ジる^ル。財^{サイ}を^を用^{ヨウ}る^ル法^{ホウ}と^トあ^アり^リて^テが

代々く家とやううあじく。徳乃細く
雑ザツ義ギと成。さかちういふもあつらん。ま
い。あはるも道とてやかりてある。わ
し人はずあつものゆ也。あつとるあつん。は
あとおさじらる人。日ああつとく。はと
り。あつとく。はとるあつ。はとる
い。あつとく。はとるあつ。はとる
あつ。あつとく。はとるあつ。はとる
あつ。あつとく。はとるあつ。はとる
あつ。あつとく。はとるあつ。はとる

財用よとり。あつとく。はとるあつ。はとる
あつ。あつとく。はとるあつ。はとる
あつ。あつとく。はとるあつ。はとる
あつ。あつとく。はとるあつ。はとる
あつ。あつとく。はとるあつ。はとる
あつ。あつとく。はとるあつ。はとる
あつ。あつとく。はとるあつ。はとる
あつ。あつとく。はとるあつ。はとる

紡と日用なり

家を保つ^{タモ}の道ハ勤^{キン}と儉^{ケン}との二なり。曰民は
勤^{キン}じれハ家業よくおほゆり。紡績とほ
ふの基^{モト}とかり。又あるよりそのありあか
さより。勤^{キン}じらハ是紡績とほられぬなり
なハはとじへ。儉^{ケン}約されハ紡績を失ふなりと
してよく家となり。儉^{ケン}約ハ紡績となりて
失^シはるるあり。二乃者よくい紡績れて家
道立^ツ川一とていつくは曰民皆同じく是

を紡^フへ。又勤^{キン}と儉^{ケン}の工夫ハ母^{ハハ}よりあり。其
いふゆかり。昔^{イマ}勞^{ロウ}とてよくよくはとめ
私^シ欲^{ヨク}とてよくよく儉^{ケン}約とせよ

飲食^{インシ}衣服^{イフク}器^キ器^キ物^{モノ}なり。つるもの分^{ブン}より
つるくともがよむとあるへ。身^ミよりお
めかつるや。いふがよむるなり。只
とやばやなり。おに報^{ホウ}とらるるなり。と
つるよりとれて紡績とほじへ。又礼^{レイ}義^ギ
とせよ。人をとてい融^{ジュウ}くするなり。

あつひ力とせどく。材とせじく。は
是人とせられ人なほあつるるされど
家の破れたる所をく修理し武具は
その人へせりて換へるに改り補
い。又よりゆりたる器をくのけ換へる
はく修理とく。凡小破乃時修理とく
くされ。大破よりていじり
仕る者いふより給る。禄あり。農工商の又
より給る田地あり。家材あり。士も庶人も

も材禄乃ぬす。より。き分内して儉約
とせ。家人とせ。いふ。家材ぬす。はく。是君
よりけり。のき。天より給る所の
き分れ材禄され。大身小身貴富とも
いふ。家の材禄と用ひく事。是りぬす。
是天令と安んじて外を教へる也。庶
子とせ。外の材と借用あり。はく。家禄
乃分給。より。はく。やせ。必材不足して
外は借用あり。是材と用ひぬす。

きん人のまひとるい大なるぞあり
材を用ふふをはんで大いなる故に乃
費とまひとるい大なるぞあり
ゆゑに乃れ費いふいふ大なる言れ
一財は父母材を用ふと申すなり必れ強
てよくとるなりやむと申すなり
費とるなり小の費とはんで大なるなり
もれ大なる費とるなりとれなり甚しく材
をやつはとるなり

家とおふ材を用ふ事とふふと用ひ
て精しくはとるなりやむと申すなり
もおふはとるなりとるなりとるなり
材とるなり用ひとるなりとるなり
ふいふとるなりとるなりとるなり
ろとるなり材の用なりとるなり
或はとるなりとるなりとるなり
ふいふとるなりとるなりとるなり
ふいふとるなりとるなりとるなり

おろくする事。事しむる理。はあらむ。と。
是をを用ひて。用ひても精。あらむ。也。
君より禄^{ロク}と位^イとを授かる事。ふらむ事。なり。
あり。されど。その事。ふらむ事。もたれ。て。
失ふ事。ある。む。と。禄位を授かる事。は。
幸ふ事。あり。人あり。材禄とある。何と。
う。ふらむ事。は。徳をいふ。成る。事。
あり。と。徳も。徳あり。て。失ふ事。あり。
故に。材禄ある人。を。徳の。と。いふ。人。

て。材禄とあり。つへ。又。材禄と。いふ。あり。
分外の。富。財。あり。と。子孫の。こと。ある。事。
より。財。を。正しく。子孫に。道。あり。
え。財の。こと。は。あり。と。子孫。ある。事。
材禄との。こと。も。失ふ。事。は。民。皆。あり。
あり。材禄を。たれ。て。失ふ。事。と。子孫。
と。あり。と。人。あり。と。財。あり。と。仁。を。い。
人を。あ。れ。と。いふ。事。と。財。を。いふ。事。
あり。と。子孫。は。吉。と。いふ。事。と。いふ。事。

是天道より理されぬ。高附目み
 ころころあきも。後は必天乃やぐと
 うく。是美金紙とて神佛よるつ
 いのるぬ百倍より新様なり。是けね
 いわい。つうのや。これ人のとえ古今
 のあやめあり。うらふるに
 材を用ひはを礼記乃王制より。曰材用
 と制とるふ。入る。これ紙よりて出と事と
 あり。さういふ年れ業は。今このはる。雨の材乃

分限とがどく。さ分限のあやめ。い
 ち年の^{ホウケダ}きふ。いよりて。それは。毎て。まひ
 まつ。つうい用分限と定め。け。みう
 へく。けい用事。を^{ミホト}節め。と。け
 きの材乃。分限より。と。け。用。い。い。
 け。あ。より。さ。多。た。れ。材。不。足。一。多
 困窮。ある。い。う。い。い。一。是。と。入。を。さ。う。
 て。出。と。う。紙。と。う。い。う。さ。と。費。紙。を。さ
 せ。う。と。い。う。め。く。成。ま。い。紙。材。と。多

く多く之凶年火災盜賊疫病死亡軍
 用は備ふべし是万世計を用ふる良法也
 一、此三年耕して必一年の食ありとい
 たり此三年農人の三年田返つて一年
 の食の給計あり多くは二所の田地に
 くれ二所のうち一とれ一所れちり
 づいを残して用いど三年とれ二所の
 ありといの給計もはゆふふたとい水旱
 風霜の凶年ありく五穀のつとれ

飢饉の患あり故用事くひと士と工農乃
 家もけ計とありくちるべし是とありて
 くるふつあ一のはいずる君より給る可
 の禄を毎年定むつらこふと見いて一
 分をばくく之をく用ひと一分を三年
 におくといふかある故りい凶年にい
 変るあひくも困苦のうまひなりこ
 分の一とくく之をく凶年なりあ或あ
 火盜賊なりこの変をたとい又軍用

る如く人の困窮をとりんぐあなり。是
いめく幼を育むるの法也。ばけを幼るを
民くも幼ゆふて多き窮るをさし
ちく。是古今通用とんま良法也

元平の世の勢い。年々ふあつた。必ず美
みあひさそ。ねらつといえあひなり。そ
ゆゑのなれ。儉約をしひ。そて幼なりと
して。只いさういさう。せの減り。よまうせぬ
と。は。人々困窮して。あとならう。と。佐

よる。と。あつた。つり。ゆ。く。儉約の道。と。
て。は。い。必。あ。を。や。る。あ。い。人。と。あ。ま。と
なり。人々。あ。く。い。つ。を。さ。く。あ。い。人。と。
あ。の。あ。い。を。あ。後。の。あ。と。あ。く。あ。い。人。は。う
ら。され。も。必。ら。う。さ。う。ま。い。あ。り。り。あ。憂。勤。
ひ。れ。い。は。い。必。あ。あ。ち。り。神。あ。う。り。て。ん
と。あ。い。人。後。い。必。う。ま。い。り。り。と。あ。い。人。
理。を。よく。あ。い。人。と。あ。い。人。

材の用やうと。た。あ。い。人。と。い。た。人。と。今。兄。才

二人あり。さあはつは福の分限も人の口教
も同一く。父のやうなるはとも同一く。父の傍
物乃ちあひあつたれども同一。故にさうあつた
富も又同一く。人さういふ。人さういふ
りあつた不きさう。人さういふ。人さういふ
あつた。さういふ。人さういふ。人さういふ
て。人さういふ。人さういふ。人さういふ。
後、いさういふ。人さういふ。人さういふ。
屋さういふ。人さういふ。人さういふ。

用やういふ。人さういふ。人さういふ。
はとあつた。人さういふ。人さういふ。
いさういふ。人さういふ。人さういふ。
と地の子。人さういふ。人さういふ。
地震やういふ。人さういふ。人さういふ。
いさういふ。人さういふ。人さういふ。
あつた。人さういふ。人さういふ。
は日乃ちいふ。人さういふ。人さういふ。

ひと必要なり。う。か。ふ。て。い。つ。り。是。必。然。乃
乃。理。也。材。多。く。あ。り。ま。う。い。ふ。多。苦。る。人。は。ほ
と。こ。ま。う。材。と。多。く。あ。り。ま。う。人。は。ほ。と。こ
さ。す。永。く。子。孫。よ。う。う。ん。と。す。ま。さ。も。大。災
盜。賊。や。し。る。ま。の。災。害。は。あ。い。く。材。を
し。る。い。或。子。孫。乃。不。使。り。よ。う。そ。材。を
し。る。い。ま。今。世。よ。う。い。ふ。多。く。材。を
あ。つ。め。て。い。ふ。ま。と。ん。と。す。れ。ど。材。と。あ。つ
め。て。い。ふ。ま。人。は。ほ。と。こ。さ。れ。い。必。ず。い

し。て。あ。る。廉。墨。乃。材。矩。橋。の。栗。お。う。て。ち
な。り。う。う。い。鄧。通。乃。材。石。崇。乃。金。谷
の。富。も。不。使。さ。れ。け。れ。は。ま。あ。り。又。友。孫
と。い。ふ。材。多。く。あ。り。ま。う。子。孫。の。こ。せ
と。も。う。う。い。仁。也。を。知。り。ま。う。そ。て。積。ち。ま
た。れ。ど。天。道。ふ。る。じ。と。そ。後。の。作。事。や。う。い。ふ
と。子。孫。不。使。り。て。い。ふ。ま。友。孫。乃。材。多。く。成
た。り。う。う。い。只。後。世。と。い。ふ。い。う。の。う。い。う
若。と。い。ふ。人。を。と。い。ふ。子。孫。の。こ。せ

家運言曰

卷之四

卷之四

卷之四

用也。一かくのよく長成なりと人々と
くふ人の必え道乃にゆく深くコくわさひ
ひらき福をサイイし。無量の祈禱をキタウしてんたり
は神佛にへりふよい。るるに海よりま
はす大なる無智の人とい理とあつて通
なくそ神仏といひて神仏を愚ろふし。
私なりぞとあさじとあらる也。是神佛
のちよきむらあんともくる人よ利生あり
んや。

允材とおもひては試めりしなり成る功
 を立ふるやぬるや。又人の心をゆるして
 人思ひつるも人の心を放事と成りて
 くだりしものなりゆに軍にも賞状よく
 する士年よりととて勇戦をいけり。こ
 れより香餌之下より益急ありとあり。貴
 うといはれし士年よりけりなく軍功も
 一。是皆各當のわざなり。信然
 小欲大損と云是なり

乃れ義といふは、
とあるは、
は、
是、
皆、
し、
つ、
皆、
ら、
とて我、

寡、
か、
これ、
ま、
こ、
は、
よ、
巾、
と、

つゝの天緒おとる

人の書と叫びわ。書成る一巻くまの人の書
をちよんくあく返とて。人の書成るるとて見
す。て。久し。とめ。並い。抄とて。なり。大冊サツお
ふ書も二冊一冊を尺を。中冊の書は
六冊く。六冊く。返とて。十冊く
ら。十冊く。返とて。久し。とめ。並
る。久し。返とて。人。久し。とめ。並
と。と。学。の。を。用。ひ。き。る。なり。

てをくぐりていづに留めたる人なり。書と
るるものをこのちにも書けうにされいふす
とぬい。我々書ふあされい月ある時考へ
う。材多き人の書と實るやいづに
わつ身の信書よおる人必跡をおふそ
人よはこさび。材多かれど人よはこさび
ふ。只書書るものありに不仁と云へ。跡
をせしむいふにひたふと。程子のころ
はふふ志ふか。

卷之四終

